

平成 30（2018）年度

<2018（H30）/4/1 - 2019（H31）/3/31>

事業報告・活動計算書等

目 次

1 事業報告

（１）全 体	2 p
（２）山口市市民活動支援センター「さぼらんて」	5 p
（３）ほっとさろん中市「まちのえき」	24 p
（４）こども明日花プロジェクト	27 p

特定非営利活動法人 山口せわやきネットワーク

■ 法 人 全 体 事 業 報 告 ■

特定非営利活動法人山口せわやきネットワークは、市民の『まちづくり意識向上』『まちづくり参加』『まちづくり活動展開』のしくみづくりを目指して、平成 15（2003）年 6 月 11 日に法人としてスタートしました。そして 15 年目となる平成 30 年 5 月に認定格を取得しました。この制度は、NPO 法人への寄附を促すことにより、NPO 法人の活動を支援するために税制上の優遇措置として設けられた制度です。この制度の特徴を生かし、昨年度も 500 万円（まちのえき 75 万円、明日花 430 万円）を超える寄附を集めることができました。

事業においては、設立のきっかけともなった、**山口市市民活動支援センターさぼらんて**の運営（山口市委託）は、相談対応・情報発信を中心にセミナーや伴走支援の他、課題を中心にした円卓会議などを行いました。また新たに求められる地域支援に向けて、社会福祉協議会との円卓会議や、地域訪問などで連携を模索しました。

高齢者等交流施設**ほっとさろん中市まちのえき**の運営（山口市委託）も 15 年が過ぎ、商店街で高齢者の自然な交流を促し、1 日平成 70 名以上の利用者があり安定した事業展開をしています。

平成 28(2016)年度にスタートした**こども明日花プロジェクト**は、総額 1,500 万円余りの事業費の内、430 万円余りの寄附を集めて委託、補助、寄附と多様な財源確保で運営しています。協力ボランティアも増え、子ども食堂など取り組みやすいテーマで地域へも広がっています。

15 年目が終了し、新たなスタートに向え、今後も市民組織らしい、巻き込みと多様な財源確保ができる組織づくりを目指していきます。

1 会 議

（１）総会

- 日 時：5 月 27 日（日）10：00～11：30
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて
- 出席者数：正会員 10 名（内、書面表決出席 6 名）、監事 1 名、職員 1 名
- 内 容：平成 29 年度事業報告・収支決算、監査報告
平成 30 年度事業計画・活動予算

（２）理事会

①第 1 回

- 日 時：4 月 27 日（金）18：00～20：00
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて
- 出席者：理事 3 名 職員 1 名
- 内 容：＜報告＞平成 30 年度活動予算、職員体制
＜協議＞平成 29 年度事業報告、補正・収支決算、総会等

②第 2 回

- 日 時：11 月 5 日（月）18：00～20：00
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて
- 出席者：理事 3 名 職員 1 名
- 内 容：＜報告＞平成 30 年度事業経過報告 明日花資金繰り等について

③第3回

- 日 時：2月7日（木）18：00～20：00
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて
- 出席者：理事3名 職員1名
- 内 容：＜報告＞平成30年度事業経過報告 決算見込みについて
＜協議＞平成30年度補正予算・決算見込み
平成31年度事業計画及び活動予算
平成31年役員変更について
賛助会員導入について（定款変更）

（3）監 査

- 日 時：5月15日（火）18：00～19：30
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて

2 事 業

（1）山口市市民活動支援センター「さぼらんて」に関する事業 《定款事業①②③》

○平成30年度山口市市民活動支援センター運営事業

◇山口市（協働推進課）委託事業

山口市市民活動支援センター運営事業：委託契約書及び委託仕様書に基づき、「施設管理」「普及・啓発」「相談」「人材発掘・養成」「事務局支援」「ネットワーク」の6機能をベースとして、マネジメント力・情報発信力の支援、課題を中心にした話し合いの場づくりにも力を入れ事業展開をしました。

◇県のプロポーザル事業の山口県地域支援拠点支援力強化事業・中核的人材養成事業・県民活動団体協働促進事業を受託し、市民組織のマネジメント力を強化（市民活動支援センター運営事業の中で報告）

上記山口県委託事業を「地域コーディネーター養成事業」と題して、ロジックモデル・コレクティブインパクトを学び、基本的な運営力をつけるためのセミナーを実施。

（2）ほっとさろん中市「まちのえき」に関する事業 《定款事業①》

○平成30年度高齢者等交流施設運営事業

◇山口市（高齢福祉課）委託事業

高齢者等交流施設運営事業の委託契約書に基づき、運営法人として「休憩機能」「交流機能」「相談機能」「情報機能」を基本機能として設定、「移動支援機能」を付加機能とし、平成30年度は「高齢者同士の交流推進のために情報の交流の発展と新規来所者の増加」を主要テーマに事業を展開しました。

（3）こども明日花プロジェクトに関する事業《定款事業②③》 ※＜＞は財源

- 学習支援 ＜山口市委託・WAM子ども未来応援基金・寄附＞
- 居場所づくり ＜山口市委託・寄附＞
- ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）＜WAM子ども未来応援基金＞
- 情報発信・啓発 ＜WAM子ども未来応援基金・やまぐち子ども子育て応援ファンド＞
- 子ども交流体験キャンプ ＜子どもゆめ基金＞
- 地域コーディネーター養成研修 ＜周南市委託＞

○ヤングワーカー（若き担い手）育成 ＜河村財団＞

○資金調達 委託、助成金のほか共同募金、企業、一般などから 4,501,943 円の寄附

○その他

山口市のクラウドファンディングを活用して地域への子ども食堂の展開や 24 回の講演会を実施。

（４）その他市民活動事業＜定款事業①②＞

①講師等派遣事業

ア．行政等会議の出席

○山口県県民活動審議会 ２回 渡邊洋子

○山口県地域福祉課題提言部会 ３回 渡邊洋子

○宇部市コミュニティビジネス応援事業助成選考審査委員会 １回 渡邊洋子

イ．講師派遣（法人派遣事業）

○山口市地域づくりアドバイザー派遣 ４回 渡邊洋子他 ２名

○山口市男女共同参画センターのはなまる参画サロンへの講師派遣 藤岡亜希子他 １名

＜認定 N P O 法人山口せわやきネットワーク定款抜粋＞

【目的】本会は、市民及び市民団体を応援し、もって、みんなの幸せを考え誰もが住みよいまちづくりを目指した新しい社会システムの構築を図ることにより、社会の公益の増進に寄与することを目的とする。

【事業】本会は目的を達成するため、次の事業を行う

①市民のまちづくり意識向上のしくみづくり事業

②市民のまちづくり参加のしくみづくり事業

③市民のまちづくり活動展開のしくみづくり事業

④その他、本会の目的を達成するために必要な事業

■ 山口市市民活動支援センターさぽらんて事業報告 ■

＜山口市協働推進課委託事業＞

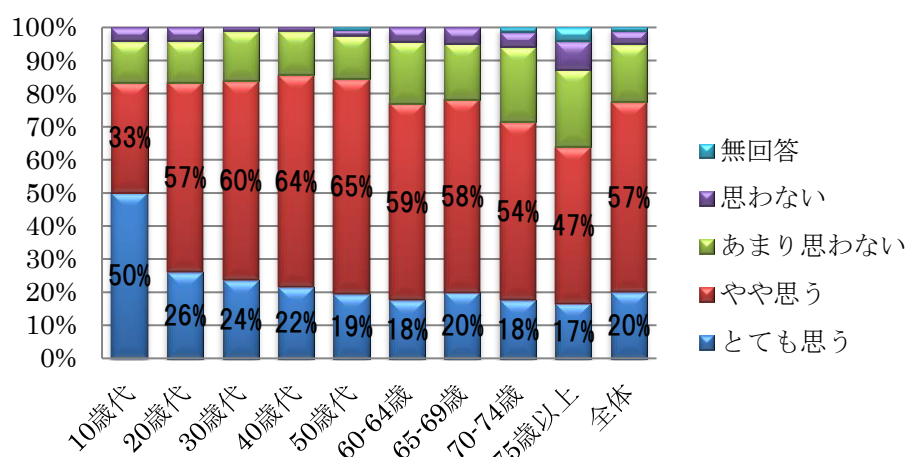
I 平成 30 年度さぽらんての主な事業の分類

市民活動団体の人材確保、多様な財源確保に向けての基盤強化が進まないという課題を踏まえて、NPOへの伴走支援や相談などの基本支援の他、以下を中心に事業を展開。

- 1 市民活動への参加のきっかけづくり
- 2 市民活動と地域をつなぐ支援
- 3 市民活動団体への活動・運営支援

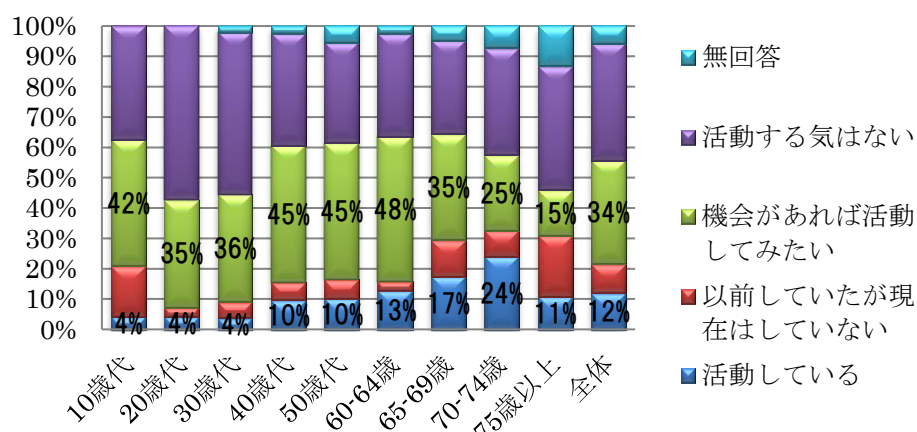
1 市民活動への参加のきっかけづくり

社会貢献意欲



平成29年度の山口市のまちづくりアンケートによると10代、20代の社会貢献したい思いは、「とても思う」「やや思う」割合は、合せて83.3%と非常に高い。一方市民活動・ボランティア活動をしている人は、10代20代ともに4.2%に留まっている。今後、社会貢献意欲があり、市民活動・ボランティア活動をしてみたいと考えている人たちを自然に巻き込んで行けるきっかけが重要と考え、事業を実施した。

市民活動・ボランティア意欲



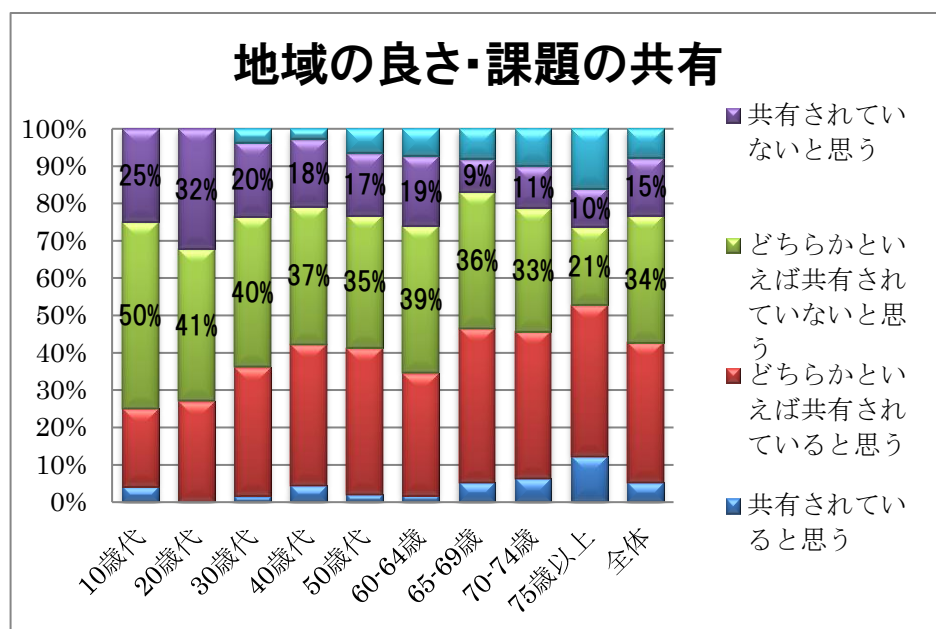
(1) 若者（大学生）のボランティアコーディネート ＜13P-15P＞

市民団体のチャリティイベントに大学生ボランティアを募集し、インターンシップを積極的に受け入れるなどして、地域や市民団体と大学生をつないでいった。33名の学生の参加があった。

(2) その他

山口市のまちづくりアンケートにある市民活動やボランティア活動を「以前やっていた」「機会があればやってみたい」という人たちを対象に、市民活動を身近に知ってもらえるように、ホームページへ団体情報の発信や、SNS の活用、漫画を用いた気軽な情報紙「ええやん新聞」を発行した。相談対応においても市民からのボランティアをしたいのだがという相談も多く、団体とマッチングしていった。

2 市民活動と地域をつなぐ支援



平成 29 年度の山口市のまちづくりアンケートによると地域の良さや課題について「共有されていないと思う」「どちらかというと思う」割合は、10 代 75%、20 代 73%と平均の 49%を大きく上まわり、若い世代への巻き込みの重要性を感じた。最初のステップとして、地域住民が課題を中心にして対話できるワークショップや円卓会議

をコーディネートしていった。このことにより、今後地域行事へ小学生や中学生ボランティアの巻き込みにつながることを期待。

(1) 大内コドモジカプロジェクト

大人も子どもも地域との関わりが希薄になりつつある今日。子どもを真ん中に地域のつながりを呼び戻そうという地域交流センターや地域づくり協議会と連携したプロジェクト。今年度は4町内会で実施し、子どもの参加、大人のボランティア合せて461名の参加となった。

(2) 小鯖未来カフェ [カタリバ]

平成 29 年度から地域で実施されている「小鯖未来カフェ」の中で、若い参加者同士の語り合い、自主企画の実践を地域担当者とともに支援。今後の継続した活動となっていった。

(3) その他

地域支援に向けて、地域を知るためにセミナーへの協力（15 回のべ 28 名）や、協働推進課と共に地域訪問（39 回のべ 42 名）を行った。

3 市民活動団体への活動・運営支援

(1) セミナー開催

公共を担っていくための「社会的信頼を得られる継続的活動」に向けて、情報発信力とマネジメント力に重点をおいて講座（2 回）、研修（6 回）、伴走支援（28 回）を行った。

(2) さぼカフェ [ひきこもりから社会とのリコネクション（再接続）を考える]

上記をテーマに 4 市民団体、関係機関 2 か所、行政担当 5 課（山口市 3 課、県 2 課）が集まり、3

回の円卓会議を実施。立場が違ひきこりの支援者のネットワークが形成された。今後も引きこもり支援する NPO が中心となり継続予定。

(3) 支え人。～企業×NPO のつながりプロジェクト～

今年度も 3 NPO 法人に対し、8 社から 237, 102 円の寄附を頂く。これまでの合計 1, 197, 026 円この他、テーマに対する連携企業や自動販売機設置企業 4 社。

(4) その他

相談対応を基本とし、市民活動団体への伴走支援を行った。相談においては、情報発信に関するもの、助成金に関するものが多い。

Ⅱ 委託契約に基づく事業報告（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

【基本目標】

「個性豊かで 活力のある 自立した地域社会」に向けて

- ①市民の市民活動への参画を促進すること
- ②NPO の活動基盤の強化、NPO の自立を促進すること（公共を担う団体の育成）
- ③広く NPO ・地域コミュニティ・企業・行政とのパートナーシップを図り協働によるまちづくりを推進すること

上記を基本目標に契約書・仕様書に基づき「施設管理機能」「普及・啓発及び情報収集・提供機能」「相談機能」「人材発掘・養成機能」「協働促進・ネットワーク機能」「事務局支援機能」別に以下のとおり実施。

1 施設管理

山口市中心商店街へ設置された拠点機能（ハード）を活用した支援機能（ソフト）となるため、市民活動団体への支援を中心に幅広い利用者を想定し、下記の対象別エリアを設定し対応。

(1) 開館日

水曜日及び年末年始（12/29～1/3）を除く毎日

開館日数：308日

閉館日数：57日

(2) 開館時間

9：30～18：00

※利用団体の講座などの準備に合わせて、スタッフは9時より出勤

登録団体の時間外利用は 柔軟に対応



2 普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。商店街にある拠点を活用し団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど引き続き情報集積にも力を入れた。

また、市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布のほか、一部地域への回覧とした。

円卓会議やコドモジカンププロジェクトなど事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともにかわら版も作成し、事後の広報にも努めた。

（１）市民活動に関わる情報の収集及び整理

- ①山口市内の市民活動情報
- ②NPO支援情報
- ③市外の市民活動情報

（２）広報紙等の発行

１年間の市民活動支援の事業報告や円卓会議などのかわら版を発行し支援内容を伝える他、団体が人材不足の課題を抱えているため、市民向けの啓発紙「ええやん新聞」にも力を入れ、市民と市民活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にした。



①さぼらんて事業情報

- さぼらんての平成 29 年度の事業報告ダイジェスト版
- さぼらんての平成 30 年度の事業方針及び事業一覧
- さぼらんてかわら版

ア．さぼカフェかわら版 ～ひきこもりから考える社会とのリコネクション～

②助成金情報

- ア．さぼらんてからのおいしい助成金情報の発行
- イ．助成金情報メルマガ

③ええやん新聞

平成 29 年度山口市まちづくりアンケートによると、市民活動やボランティア活動（NPO活動）を行っている市民の割合は全体の 11.9%と低いものの、「以前やっていた（9.5%）」「機会があればやってみたい（34.2%）」と回答した市民を合わせると 43.7%で市民活動予備軍ともいえる潜在市民は半数近くいることが推測される。身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信し、特に子育て世代の新しい価値観との出会いや気づきを刺激し、まちづくりへの参加・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的としている。

年 2 回、幼稚園、小・中学生に全員配布、地域へも回覧するなどして 30,000 部発行。

【対 象】 市民（主に子育て世代想定） 年 2 回発行（9/末、2/初）

【発行部数】 18・19 号 各 30,000 部

【配 布 先】 市内公立幼稚園、小・中学校、21 地域交流センター、子育てひろば、一部地域回覧、他関係各所

【形 態】 タブロイド判 カラー印刷

【HP発信】 PDFでホームページ上での閲覧を可能にした。

【テ ー マ】 18 号 : 特集～グリーフ（悲しみ）に寄り添う～

- 1P: ええやんピーブル 山根和子さん＜グリーフサポートやまぐち代表＞
 2-3P: 小さく生まれた赤ちゃんのために（NICUママネットのびっこ）
 転勤族で山口に来た人を支える（monte bocca）
 遺児による遺児のための活動（あしなが学生募金事務局）
 子どもたちのグリーフに寄り添う（グリーフサポートやまぐち）
 4P: もうひとつのグリーフケア活動（Dog ケアハウス伝）
 レシピ「あげ野菜のカラフルマリネ」
 さぼらんととは、クイズ、編集後記

19 号 : 特集～子どもの成長を見守るまなざし～

- 1P: ええやんピーブル 上村早苗さん＜認定 NPO 法人支えてね트워크＞
 2-3P: 起立性調節障害！？マンガエピソード（情報提供者幸徳七海さん）
 自分を責めて悩む親にほっと一息つける場を（起立性調節障害を考える親の会カフェ）
 不登校当事者の回復までの困難さをすごくで解説（NPO 法人フリースクール AUC）
 子ども自ら学び方を選べる社会の実現へ（Happy Education）
 自然の中で学ぶ土曜学校（NPO 法人もりのこえん）
 4P: 地域レポート嘉川編
 レシピ「米粉のさくさくクッキー」
 さぼらんととは、クイズ、編集後記

【成 果】

市民意識の啓発、市民記者の人材育成を以下のとおり評価

■読者アンケート集計

18 号	項 目	%
	より身近に市民活動を感じた(理解・関心が高まった)	14
	社会課題(特集内容)について考えるきっかけ、共感につながった	62
	情報提供を活用	3
	はじめの一步につながる勇気、元気、やる気につながった	0
	さぼらんとでの周知につながった	0
	その他	21

「グリーフ」という耳慣れないことばを、自分に置き換えて理解したという感想が目立った。同じ境遇の人を支えようとする活動があることに対し、心強さや安心感を得たという声も聞かれた。

19 号	項 目	%
	より身近に市民活動を感じた(理解・関心が高まった)	9
	社会課題(特集内容)について考えるきっかけ、共感につながった	53
	情報提供を活用	12
	はじめの一步につながる勇気、元気、やる気につながった	9
	さぼらんとでの周知につながった	0
	その他	17

地域で不登校児童を支える体制があることに安堵する声や情報の活用、社会問題とし

て身近に感じるという声があったこと、取材団体への相談・問合せもこれまで以上の反響があったことは大きな成果。

■今後に向けて

企画、編集、発行、モニター会議等の情報紙作成の一連の流れを地域にも活用できるように体制づくりにも力を入れたい。

④活動インフォメーション

毎月の市民活動情報の中から一般市民が馴染みやすい情報を選定し、紙媒体として発行。商店街のちらし入れなど、広く市民の目につくところに配置。

(3) ホームページ

昨年度のリニューアルに引き続き、団体情報やF B情報も見やすくテンプレートの修正を行った。また、地域情報のポータルサイトとして地域版カレンダーを新設した。

アクセス数は、15,343件(42件/日)。実人数8,866人。(HPリニューアルにより、カウント方法が以前と条件が異なる。)

①まちサポ広場(電子図書館)の市民活動団体利用 登録団体(311)の基本データは全て掲載。

	H30 年度	H29 年度	H28 年度	H27 年度	H26 年度
利用団体数	311	307	297	301	290
更新団体数	52	52	64	53	55
年間記事数	1,362	1,766	1,982	1,467	1,625

(4) 情報交流コーナーの活用(「さぼらんて」前面フロア)

- ①市民活動紹介コーナー 団体紹介ミニポスターを作成し掲示。
- ②助成金コーナー 展示場所を前面に出しPR。
- ③NPO法人情報コーナー NPO法人格取得に向けて情報などを設置し、掲示がマンネリ化しないようにレイアウトを随時変更するとともに、市民活動等に関する情報を分野に分け、見出しやコメントをつけて掲示し啓発。



(5) マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを行い、団体の活動が新聞記事やTVニュースにも取り上げられた。

(6) 市役所ロビーなどにおける市民活動出張展示

さぼらんて入口に常設の「市民活動紹介ポスター」は、初めて来館された方が興味深く見る人が多い。写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」を日頃来館する機会の少ない市民に向けて、外部会場に展示することで、団体情報の提供および、市民活動啓発のために開催。転入出時期に市役所ロビーで展示を行うことで、新たに山口市民になった人へ、まち

づくりの意識向上や参加へのきっかけを促し、市民活動への理解を深めてもらうことが狙い。

今回は、ブルー・ライト山口さんがLIUB(ライトイットアップブルー)発達障がい啓発週間(4月2日～8日)のイベントの広報を独自値で展示され、来館者の目を引いた。さぼらんての広報紙ええやん新聞は毎年人気で今回も持ち帰りが多かった。



【展示内容】

- ・ さぼらんて広報紙等(ええやん新聞、さぼらんて事業報告・事業予定、コドモジカンかわら版など)
- ・ 登録団体活動紹介ミニポスター62 団体
- ・ 団体パンフレット 20 団体 25 種

【展示場所】

開催日：平成 30 年 3 月 15 日(木)～4 月 13 日(金)

場 所：山口市役所ロビー

【その他の展示】

イベント：山口県パートナーシップ会議

開催日：平成 30 年 11 月 23 日(金・祝)

内 容：市民活動紹介ポスター、団体パンフレット等展示

登録団体にも声かけを行い、HappyEducation、ブルー・ライト山口、グリーフサポート山口が展示

(7) その他

商店街に立地している強みを活かし、団体の持ち込みイベントを 8 団体が年間 46 日間実施。それぞれの活動のテーマごとの課題を発信。



3 相 談

市民活動支援の基本を相談に置き、多様な相談に対応。特に運営相談は、寄り添い支援を基本に必要な場合は専門家と連携し対応していった。

また、商店街に設置されていることから、市民からの活動相談等も半数以上を占め、個人の活動への相談対応や、市民活動団体との橋渡しも行った。

(1) 相談・問い合わせへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面・電話・メールによる相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

○相 談 件 数 5 1 4 件 (来所 344 件、 電話 170 件)

○問い合わせ件数 2 2 0 件 (来所 132 件、 電話 88 件)

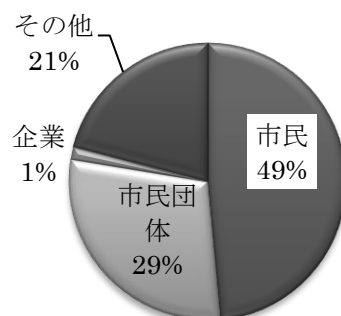
※職員の相談カードに記載された特記事項のあるものの件数は 468 件（グラフ集計総数）

【対象別相談内訳】

対 象	件 数
市民	227
市民団体	136
企業	7
その他	98
合 計	468

市民からの相談が 49%。商店街に位置していることから市民の活動への気軽な相談場所となっていることが伺える。

対象別相談等の件数

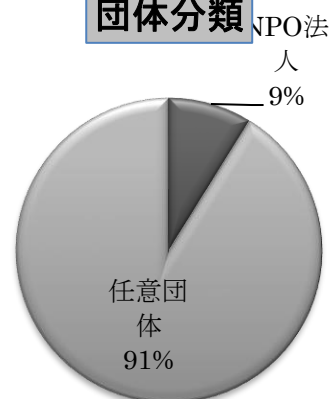


【団体からの相談内容種類別内訳】

団体分類	内容	件数	
NPO法人	運営	3	12
	活動	9	
任意団体	運営	16	124
	活動	108	
合 計		136	136

団体からの相談は、任意団体からの活動の相談が8割近くを占める。内容は、ブログや情報発信に関するものと助成金に関する相談が多い。

団体分類

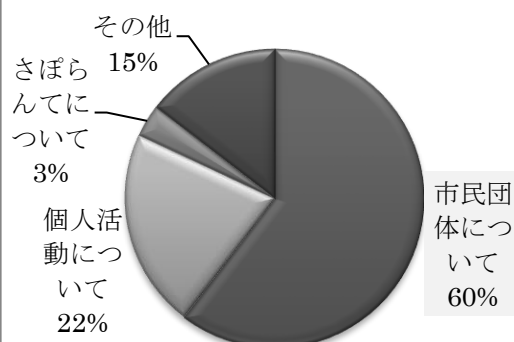


【市民からの相談内容内訳】

内 容	件数
個人的活動について	49
さぼらんてについて	8
市民団体について	137
その他	33
合 計	227

昨年夏にフードバンクポストが設置され、フードバンクに関する問合せが増えている。個人的な活動についてはその多くがボランティアをしてみたいというものになっている。

市民からの相談内訳



寄せられた相談・問い合わせ内容を一覧化し、NPO法人等対象別に相談内容を取りまとめ、分析し相談内容の予測を行うとともに、必要な情報や知識等の蓄積に努め相談対応に反映。

4 人材発掘・養成

公共を担っていくための「社会的信頼を得られる継続的活動」に向けて、情報発信力とマネジメント力に重点をおいて、講座、研修、伴走支援等を行った。昨年度に引き続き県の「中核的人材育成事業」を受託し、協働に向けてのマネジメント力の強化も行った。

企業×NPOのつながりプロジェクト「支え人。」や伴走支援を通じてNPO法人の多様な財源確保・マネジメント力を支援。

全ての講座において、講座レポートをホームページにアップし、団体支援の情報として蓄積していった。

(1) 講座・セミナーの開催

①活動充実講座

	講座・研修	日付	講 師	参加者
1	スマホ de 写真	6/12 10-12	菓子谷 梨沙氏	2 団体 2 名
2	文章構成の基本・団体プロフィール	7/3 10-12	竹岡 絵美氏 (株)無限	8 団体 15 名

②人材育成セミナー等（※山口県受託業務）

	連続研修	日付	講 師	参加者
1	中間支援者マネジメント基本研修	7/23 10-16	モジョコンサルティング 合同会社代表 長浜 洋二氏	17 団体 49 名
2	中間支援者伴走支援実務研修	7/24 10-16		17 団体 49 名
3	ソーシャルマネジメントセミナー	9/24 10-17		14 団体 44 名
4	伴走支援&補講	8/27 10-29		11 団体 42 名
5	システムコーチングセミナー	9/25 10-16		13 団体 25 名
6	ソーシャルマネジメントセミナー成果発表	11/23 9. 5-12		12 団体 28 名
7	山口県パートナーシップ会議での花博ボランティア取材報告	11/23 13. 5-16	インターンシップ学生	54 団体 103 名

【人材育成セミナー振り返り】

最終的に伴走支援まで行った団体は 7 団体であり、その中に地域コミュニティや、社会福祉協議会などが含まれていた。このセミナーにより、現在も継続して、市民活動団体同士、さぼらんと市民活動団体や地域コミュニティ、社会福祉協議会と支援などの情報交換ができて、より強い社会変革に向けてのネットワークが構築されたことは成果として大きい。

(2) NPOマネジメント支援

ソーシャルマネジメントセミナーの伴走支援を 5 団体に 5 人のスタッフで行った他、訪問サポートや相談対応の中での事業課題の整理など寄り添い支援を 28 回実施するほかアワードへの推薦をおこなった。

(3) 企業×NPOのつながりづくりプロジェクト「支え人。」

5年目を迎えて、閉業した個人事業主の方があったものの、それぞれNPOと企業のつながりは深く安定し、よいパートナーとなってきている。

【平成30年度実績】

寄付金総額 237,102 円

4年間の寄付総額 1,197,026 円

エントリーNPO法人3法人、協力企業8社

その他の連携：NPO法人山口せわやきネットワークへの

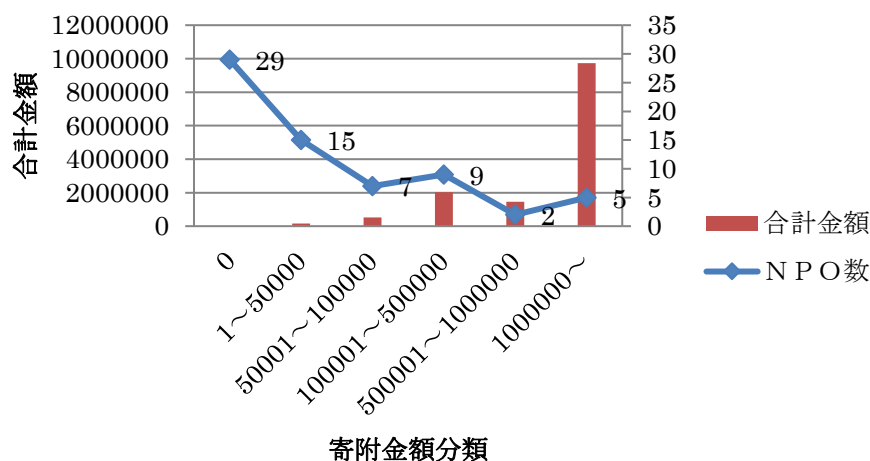
「こどもの貧困対策連携企業」提携企業3社、自動販売機設置企業4社。



参考【山口市のNPO法人の寄付金額別法人数等】

寄付金額	H29 年度	H28 年度	H27 年度	H26 年度	H25 年度
0	29	40	28	27	22
1～50,000	15	13	18	15	14
50,001～100,000	7	7	6	4	5
100,001～500,000	9	7	10	12	13
500,001～1,000,000	2	4	2	2	2
1,000,001 以上	5	4	4	4	5
合 計	67	75	68	64	61

NPO法人寄付金額別団体数一覧



○全体収入に占める寄付金収入の割合はわずか1.0%

○寄付金収入あり 38 法人 (56.7%) そのうち寄付金額 50 万円以上 7 法人 (10.4%)。

今後もNPOの財源安定に向けて、寄付を受けられる組織づくりを行い、市民の参加の手法としての寄付を啓発していきたい。

(4) 若者の社会貢献の機会提供およびボランティアコーディネート事業

平成29年度に実施した「山口市まちづくりアンケート」において、「社会のために何か貢献したいと思いますか」(29年度からの新規項目)の問いで、「とても思う」「どちらかといえば思う」と回答した市民は77.4%いた。なかでも、10代、20代は高く、実に83.3%が社会貢献に一定の意欲を示している。

日本の若者は諸外国と比べて、自己肯定感が低く、「自分自身に満足している」者の割合は5割弱。

特に10代後半から20代前半にかけて諸外国との差が大きい。また、社会課題への関与や社会参加についても、日本の若者の意識は4割強で諸外国に比べ最も低い。(2014 内閣府調べ)

背景として、他者に自分が必要とされていると実感できない、自分が人の役に立つという体験や達成感の少なさ、社会貢献教育を受ける機会や社会貢献参加の機会が少ないことが言われている。

そこで、若者ボランティアを必要とする市民活動団体とつなぎ、社会課題や社会貢献の意義に触れる機会と参加の場を提供するとともに、双方が共通の目的・目標をもって社会課題解決に向け活動できるようにコーディネートを行った。

日 時：8月6日・7日（15時半～21時半）

場 所：さぼらんて

内 容：市民活動団体、学生ボランティアによる
東日本復興支援のためのチャリティ屋
台実行委員会を立ち上げ、山口セタちょ
うちんまつりの夜にチャリティイベントを開催。



参加者：りす会山口および山口災害救援 6名

学生ボランティア 14名

その他協力：山口の街並を着物で歩こう会（浴衣レンタル、着付け）2名

チャリティ売上金額：69,400円（※全てをりす会の活動費へ）

成 果：30年度は各地で豪雨災害が相次ぐなど、りす会、山口災害救援ともに活動は多忙を極めた。被災直後から今もなお継続し、慰問、写真洗浄など復興に向けて切れ目のない支援にあたっている。被災地の状況や被災者の生の声を知るこのような団体の存在は大変貴重で、若者に社会貢献の意義を伝えるのに大変有効である。参加した学生の感想には「自分が行なったことが西日本災害の助けになる」「復興支援に少しでも協力できているという嬉しさがあつた」とボランティア活動を通して、被災地に思いを寄せるきっかけとなっただけでなく、人の役に立つことへの喜びを感じる声が聞かれた。今後も、チャリティ屋台に限らず、ボランティアやインターンシップの学生へ社会貢献の場を市民活動団体の協力の元、提供していく。

（5）インターンシッププログラム

山口県インターンシップ推進協議会や直接の申込みを受けて2名のインターンシップを受入れた。また、県立大学の「地域学習」の中で12名の学生、各60時間の実習を市民活動団体とコーディネートし受け入れた。

【インターンシップ受入】

1回目

日時：8月24日（金）～8月27日（月）5日間

対象：北九州市立大学 経済学部 経済学科 1名

2回目

日時：9月20日（木）～9月25日（火）5日間

対象：山口大学 経済学部 経営学科 1名

内容：オリエンテーション…NPO・さぼらんてについて

ワーク：寄付・社会貢献ワーク、スタッフ心得

体験：団体訪問ボランティア体験、HP 入力作業、ミニポスターづくり、さばロッチ未来カフェ参加、学生円卓会議参加、ブログ発信 等

成果：毎回大学生の充実度も高く好評なプログラムとなっている。地域貢献の在り方や自分に求められるものを深く考える機会になった様子。団体訪問先の協力体制も良く、学生の特技を活かした関わりをコーディネートしてくれた。今後もこのような機会を増やしていくことが、市民活動への理解を広げることになると確信したので、もっとたくさんの市民活動団体と学生との接点を設けていきたい。

【地域実習コーディネート】

期間：6月9日（土）～11月24日（土）

対象：山口県立大学国際文化学部 12名 各60時間

協力団体：5団体

成果：一度に12名の受入は初めての試みであり、コーディネートをするにあたっての日程調整が困難であった。報告会でのワークショップを、別のインターンシップ学生にリーダーとなって回してもらったことで学生同士気負わずに話せる環境ができた。



【その他の受け入れ】

日時：8月28日（火）13-17

対象：山口市協働推進課受入のインターンシップ学生5名を受け入れ、ワークを行った。

(6) 学生と地域をつなぐコーディネート事業

これまでさばらんにインターンシップに来た学生などを中心に「Sapo-Trigger」を結成。

学生ならではの自由な発想と行動力を生かした学生の自主企画を地域で展開することをサポート。

【大内地域コドモジカンプロジェクトへの参画】

対象：学生3名

内容：①地域のつながりを深めるプログラム「コドモジカンプロジェクト」の企画を考える

②地域に向けて各プログラムをプレゼン

③選ばれたプログラムを他の学生も協力して進める。「サイエンス」が選定された。

④講師の調整、下実験などの準備などを学生が協力して行う

⑤8月7～9日の夏休みの子どもの居場所で、3回実施。司会進行とも学生が行う

⑥地域が行う「コドモジカンプロジェクト反省会」に参加



【ゆめ花博ボランティアインタビュー＆報告】

対象：学生2名

内容：①事前打ち合わせ

②10月12,15,22日：ゆめ花博会場のボランティアヘインタビューに行く

③11月12日：映像に合わせて、当日の様子を山口県パートナーシップ会議で発表するためのリハーサル

④11月23日：山口県パートナーシップ会議でのゆめ花博ボランティア取材報告発表

5 協働促進・ネットワークに関する業務

山口市の第2次協働推進プランでは、「地域を思い、人々が集い行動する地域経営へ～共に話し合い、共に汗をかく～」をスローガンに、たくさんの人の意見を反映して地域づくりがすすむように、話し合いの場づくりを推進している。さぼらんてにおいてもこれまでの多様な主体が集う円卓会議を一層積極的に展開した。

(1) 大内コドモジカプロジェクト（3年目）

大人も子どももインターネットの普及により、限られた関わりの中だけで生活し、地域との関わりが希薄になりつつある今日。核家族化、共働き世帯の増加によりその傾向はますます強くなっている。山口市では全世帯の8.1%が一人世帯。経済格差による学力低下の負の連鎖が深刻な問題となっている。これらの問題を家庭や行政、学校だけでなく地域の力で支えていけないかという思いからこの事業に取り組むことになった。

地域と共有しつつ、今年度は4地区で実施し、子どもの参加、大人のボランティア合せのべ461名が参加した。

- ①目的：地域で子どもを見守り、居場所、学び、体験の場づくりをすることで、住民同士の結びつきを強化し、その力で地域の子どもたちを育むことを目的。

- ②内容：4地域で、寺子屋的活動をのべ10日間実施。

- ③支援

- 地域の主体性を尊重し、地域ニーズに併せたプログラム構成を心掛けた
- 3年目となるので、自治会と協議会で運営して行けるよう、見守り、助言等の後方支援。
- 学生の持ち込み企画と地域をコーディネート
- 中学校へのボランティア募集の依頼
- 今年度から地域にかわら版を作成してもらうための広報の打ち合わせに参加

- ④成果

- ・4地域で461名が参加。参加地域は6地域から4地域へと減少したが、のべ参加者数は増加しており、1地域が充実している様子が伺える。継続実施の地域はそれぞれの地域のカラーが出て、無理なく実施する体制が整ってきている。
- ・地域でかわら版を作成する人材が見つかるなど人材発掘につながった。
- ・さぼらんてのインターンシップ学生による企画運営は、地域にとっても学生にとっても満足度が高かった。
- ・一地域では、子どもの数が少なく、子ども会がない近くの地域も対象にして実施された。



(2) さぼカフェ（3回開催）

多様な団体や関係者を集めて行うさぼカフェ。今年度は、「ひきこもりから社会とのリコネクション（再接続）を考える」をテーマに、関連組織とともに考える場を設け、出てきたアイデアを実現するためのチームづくりを目指した。

第1回 日 時：5月25日(金) 10:00～12:00
場 所：さぼらんて 参加人数：14名
参加団体：市民活動団体4団体、支援組織2組織、行政3課
内 容：自己紹介、ひきこもり体験談、保護者の思い、現場の課題
ワークショップ：ひきこもり支援でどんなことができるのか？



第2回 日 時：6月22日(金) 10:00～12:00
場 所：さぼらんて 参加人数：14名
参加団体：市民活動団体4団体、支援組織2組織、行政3課
内 容：前回の振り返り
ワーク① ケース検討を通じて互いの役割の理解
ワーク② 2テーマに分かれてグループワーク
・ ひきこもりから復帰しやすい環境づくりに必要なこと
・ これがあれば次につなげやすいと思う機能

第3回 日 時：12月11日(火) 10:00～12:00
場 所：さぼらんて 参加人数：16名
参加団体：市民活動団体4団体、支援組織4組織(病院・社協含む)、行政4課
内 容：これまでの振り返り
認定NPO法人支えてネットワークからの調査報告
今後の方向性、実行委員会の設立に向けて
2グループに分かれての情報交換・グループ発表

(3) 小鯖未来カタリパワー

小鯖地域交流センターと地域づくり協議会が共催で若い人たちを集めた「小鯖未来カフェ」を昨年度から実施。その中で小鯖の未来を語り合い、若い人たちの企画が実践につながるようなワークをしたいとの依頼を受けサポート。

1回目 小鯖未来カフェ おさばのカタリバ

目 的：地域の人が主体となって、ワークを運営し、学び合い、語り合うことに意義を感じてもらい、地域の事業の目指すものを共有していく。

日 時：9月29日(土) 18:00～21:00

場 所：小鯖地域交流センター

参加者：20名(小鯖15名 その他関係者5名)

内 容：①小鯖地域づくり協議会に聞いて見よう
②小鯖の地域の愛着・誇りについては話す
③竹馬世界選手権の事業の成果を考えてみる



2回目 小鯖未来カフェ おさばのカタリバ ～小鯖竹馬世界選手権今昔未来物語～

日 時：2月21日(木) 19:00～20:45

場 所：小鯖地域交流センター

参加者：26 名（小鯖 20 名 その他関係者 6 名）

- 内 容： ①小鯖竹馬今昔物語
②竹馬世界選手権振り返り
③次年度の運営スタッフを増やすには？
④発表

成 果：昨年からカタリバに参加している人を含め、
新たな地域活動団体 TIKUBA-TOMO が結成さ
れ、今年度の小鯖竹馬世界選手権の企画・
運営を行い、今後も継続する活動となった。



（４）その他地域づくり関連事業

①地域セミナー等協力事業

地域向けセミナー等にのべ 15 回協力。

②地域訪問等

スタッフ 5 名がのべ 40 回地域訪問・支援。

③商店街広場活用ワーキング

山口市都市整備部都市整備課からの依頼により、商店街に平成 31 年 7 月に設置する予定の多目的広場について、関係する市民活動団体 6 団体に声掛けしてワークショップ開催のお手伝いをした。

日 時：9 月 4 日（火）10：00～12：30

場 所：さぼらんて

参加者：市民活動団体 6 団体、行政担当者 2 名、
タウンマネージャー 1 名、コンサルティング会社 1 名

関連事業 11 月 20 日（火）多目的広場交流会でのワーキングの報告、ワークにも参加。

3 月 24 日（日）開催の山口市まちなか広場デザイン会議のワークショップやシンポジウムのパネリストに参加団体を調整。



（５）その他のネットワーク

団体の主体性を尊重し合い、有機的な効果を生み出すための自発的なネットワークへの環境づくりを心がけ、また、今年度は特に企業とも連携しつながりを広げた。

- ①市民活動団体行事への参加
- ②商店街との連携
- ③ 視察等の受け入れ
- ④ 山口市社会福祉協議会地域福祉担当との連携
- ⑤ 関係各所との連携に向けて、以下のとおり関係会議等に参加。
- ⑥ 市民活動支援県域会議への参加（2 回）
- ⑦ 審議会等への参加（5 回）

6 市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

(1) 市民活動団体登録制度の運用

- 平成30年度末 登録団体数：311団体（前年度307団体）
＜NPO法人44（内認定NPO法人4）団体、
その他の法人5団体、任意団体262団体＞
新規登録団体数：8団体、解散団体数：4団体

(2) 登録団体へのサービス提供

- ①場の利用による支援
 - 団体BOX利用 利用団体数：75団体
 - 印刷機材の提供 利用件数：209件
 - 会議室の提供 利用件数：300件
 - 市民活動団体持ち込みイベントへの提供 利用件数：24件（延べ利用日数46日）
- ②事務局機能の代行による支援
 - イベント・講座等の「連絡取次窓口」 利用件数：21件
- ③広報支援
 - 「さぼらんての広報紙」発送時の同封サービス
利用団体数：29団体（偶数月発送作業）
 - マスコミ等への広報活動の助言
 - ホームページの団体行事カレンダーへの掲載
- ④機材貸出による支援 貸出機材件数：162件

7 その他の事業

(1) 館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぼらんてでは寄付やカンパを募り、東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

- 寄付金総額 36,551円
- 寄付先
 - ①りす会山口
 - ②福島～山口いのちの会
 - ③山口災害救援
- 上記団体に12,000円ずつの配分

Ⅲ 運 営

1 職員体制

職員の内外研修により市民活動のみならず、地域づくりへの支援力の向上に努めるとともに、毎月の職員ミーティングにおいて、事業企画や課題への意見交換を行い、支援力を磨き、多様な団体支援に

対応できる体制を整えた。また、ローテーション勤務により平日については4～6名、休祭日については2～3名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館1時間前の9時から対応した。

○事業スタッフ6名（常勤2名非常勤4名）、広報スタッフ2名、学生スタッフ8名（インターンスタッフ含む）

2 意見聴取

「さぼらんて」への意見・要望を、下記のとおり随時聴取し、運営の参考とした。

- 市民活動団体来所時及び相談対応時における意見の聞き取り。
- 「さぼらんてだより」同封作業時に協力市民活動団体から聞き取り。
- 講座開催時の参加者アンケートによる把握。
- ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒアリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。
- 団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。
- インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識を掘り下げ。

3 定例連絡会等

「さぼらんて」設置者の山口市協働推進課と運営NPO職員と、よりよい市民活動支援に向けて、連絡会を実施。事業実施におけるスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。このほかにも、小郡中ダイアログ、協働推進課主催の地域に向けた研修地域づくりきっかけみつけ隊、情報発信力の講座の企画・調整・当日協力をしていった。その際に事業担当者や協力者と随時打ち合わせを実施した。

4 職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。参加講座・研修34回

➤ 研修等一覧

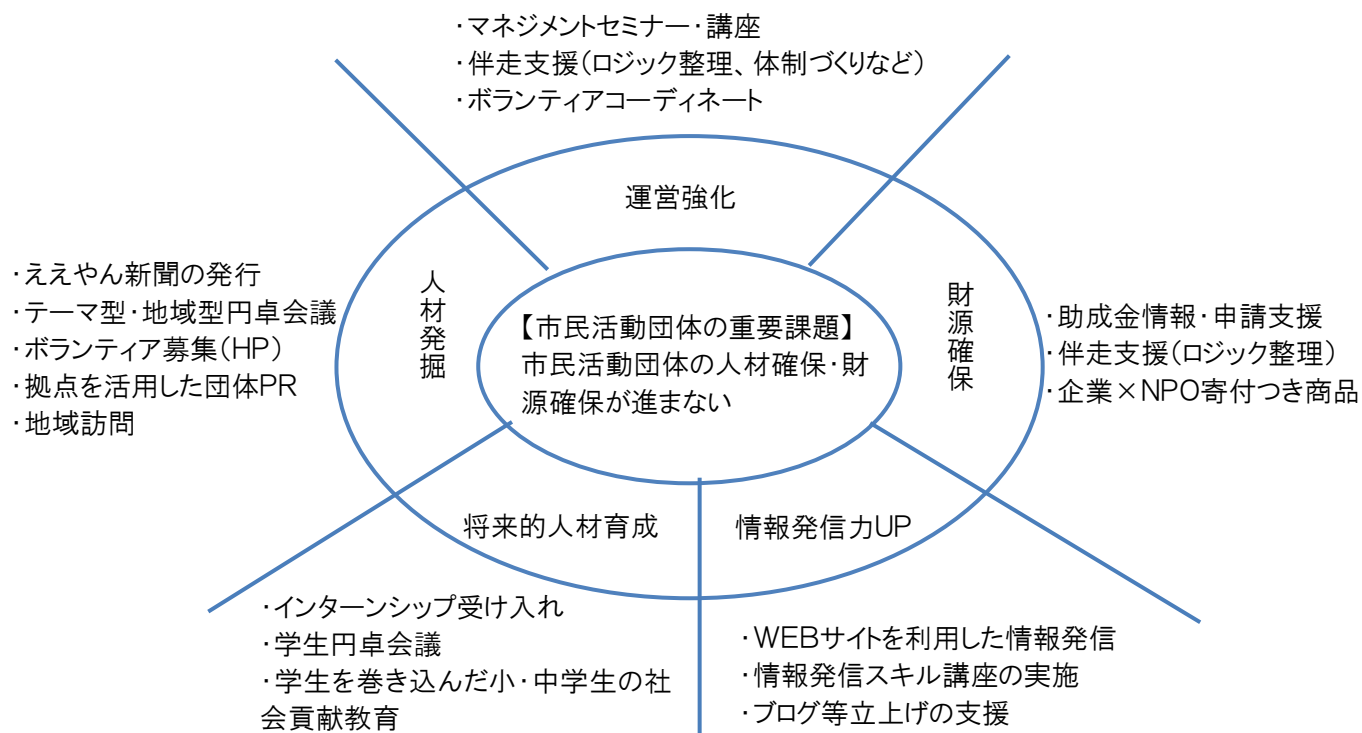
①運営支援のための講座・研修等

19の研修や視察などにのべ52名参加

②地域づくりや個別のテーマ、ワークの支援のための研修等

11の会議や研修にのべ29名参加

IV 今後に向けて



平成31年度も「情報発信の充実」「NPOのマネジメント支援」「課題をテーマにした話し合いの場づくり」「若者の巻き込み」をテーマに支援力を高め、併せて地域訪問を実施しながら、地域支援の道を模索し「誰もが安心して心豊かに暮らせる山口市」へ貢献していく。

■主なサービスの数値集計

分類		内容		30年度	29年度	28年度
基本		入館者数		23, 583	21, 792	27, 714
		登録団体		311 (新規8、解散4)	307 (新規8、解散4)	303 (新規17、解散12、抹消3)
各種サービス	相談等	相談総数		514	592	548
		内訳	来所	344	309	286
			電話	170	283	262
		問合せ総数		220	223	239
		内訳	来所	132	116	137
			電話	88	107	102
	拠点活用支援	会議室利用	総数	300	300	355
			利用団体数	26	30	31
		印刷機利用	総数	209	222	275
			利用団体数	37	49	54
		団体インターネット利用		127	126	140
		持ち込みイベント	開催のべ日数	46	46	106
			イベント数	24	23	37
			利用団体数	8	14	18
		機材貸し出し件数		177	208	206
		団体BOX利用団体		75	83	81
	情報発信支援	同封サービス利用団体		29	54	40
		電子図書館	利用団体数	311 新HPより全団体記載	307	297
			更新記事数	1, 362	1, 766	2, 341
			更新団体数	52	52	65
			活動・お知らせ更新団体数	7	7	21
			ブログ反映機能利用団体数	45	45	44
その他		ホームページアクセス数	総数	15, 343	61, 032	115, 685
		実人数	8, 866	24, 321	40, 319	

※2017.10.12より新HPに移行。

HPアクセスカウント方法が異なるため29年度以前とは比較不可。

■～ほっとサロン中市「まちのえき」～ 事業報告■

＜高齢者等交流施設運営業務 山口市高齢福祉課：委託事業＞

平成15年4月20日、市民の交流の場となる施設【ほっとサロン中市「まちのえき」】が山口市中心商店街：中市商店街に設置され、高齢者等交流をテーマとした事業が始まりました。

平成15～18年度は高齢者を中心とした幅広い世代交流をテーマに、平成19～24年度は“ひと”と“まち”をつなぐをテーマに、そして平成25年度からは高齢者同士の交流を主テーマとして事業展開を図りました。

特に本年度は、「さまざまな交流グループが生まれるように」を主要テーマに事業を展開しました。

1 施設管理・運営

高齢者から子どもまで、障がいの有無に関係なく、誰もが気軽に交流できるサロンを商店街に設置し、管理・運営を行いました。

○開館時間 10:00～16:00

○休 館 日 水曜日・日曜日・祝日・盆・年末年始

○施設及び備品類の管理

○利用者統計 平成30年度利用状況参照

2 休憩・交流

“ほっ”と一息つける雰囲気を提供を心がけ、利用される方同士の交流の場や機会を提供しました。

○お茶の提供

○フリーマーケット in まちのえき

人と人とのつながりづくりを目指して、フリーマーケットを開催しました。(月1回)

また、普段利用される方々に、準備と後片付けの協力をしてもらいました。延べ68名(実人数6名)

3 健康相談(まちの保健室)

(1) 開室日時 施設開館日の10:00～16:00

(休室時間12:00～13:00)

(2) 実施体制 保健師又は看護師が1日1人の当番制で行いました。

(3) 会 議

対応方法等を共有するための連絡会議を開催しました(年4回)。

(4) 利用状況 平成30年度利用状況参照

4 情 報

- (1) 「まちのえき」リーフレット平成30年度版の発行（710部）
- (2) ウェブサイトの管理・運営（<http://www.c-able.ne.jp/~matinoek/>）
- (3) 店頭及び館内に情報コーナー設置
店頭にパンフレットスタンドを置き、福祉や商店街に関する情報を提供し、館内にイベント情報等を掲示しました。
- (4) 情報誌の発行
 - まちのえきだより（月1回 各470部）
 - フリーマーケット手書きレター（月1回 各440部）
- (5) 情報誌の発送
希望者に「まちのえき」の情報誌を発送しました（登録13名）。
- (6) ツイッターでの発信
利用される方から聞いた情報やまち歩きから得た情報などを発信しました。
<https://twitter.com/machinoeki>

5 移動機器の貸出

- 貸出日時 施設開館日の10:00～16:00
- 貸出状況
 - ・車いす6回 ・シルバーカー6回 ・ベビーカー4回

6 そ の 他

- イベント時の夜間特別開館
 - ・山口祇園祭（7/20、24、27）
 - ・山口セタちょうちんまつり（8/6、7）
- 山口市「赤ちゃんの駅」に参加
 - ・4月1日～3月31日
- 「クールシェアやまぐち」及び「ウォームシェアやまぐち」に参加
 - ・7月1日～9月30日 ・12月1日～2月28日

＜平成30年度＞ ほっとサロン中市「まちなのえき」 利用状況

(単位:人)

	開館日	利用者数	1日 平均	イベント 等	まちな 保健室	1日 平均	タウンモビリティ		
							車いす	シルバーカー	ベビーカー
平成15年度	290	14,081	49	389	3,630	13	29	—	—
平成16年度	303	11,886	39	541	3,788	13	44	—	—
平成17年度	304.5	14,749	48	640	5,165	17	53	—	30
平成18年度	304	18,115	60	1,875	6,340	21	42	—	174
平成19年度	268	14,776	55	2,386	4,946	18	30	—	128
平成20年度	266.5	14,019	53	1,849	4,759	18	41	—	154
平成21年度	265	14,778	56	2,137	5,268	20	81	6	67
平成22年度	267	14,536	54	1,812	5,624	21	39	9	34
平成23年度	267	17,234	65	1,487	5,562	21	42	9	41
平成24年度	267	18,425	69	1,684	6,657	25	25	26	31
平成25年度	267	21,759	81	2,262	6,498	24	32	29	32
平成26年度	268	23,592	88	2,769	5,829	22	20	31	34
平成27年度	264	23,869	90	2,565	5,153	21	13	29	30
平成28年度	267	20,275	76	2,577	4,705	19	11	16	22
平成29年度	265	19,693	74	2,629	3,683	15	11	11	11
平成30年度	4月	20	1,506	75	181	293	15	1	0
	5月	19	1,480	78	251	268	15	0	0
	6月	22	1,526	69	226	302	14	0	2
	7月	21	1,435	68	191	282	14	0	0
	8月	20	1,538	77	197	274	14	0	1
	9月	19	1,514	80	235	283	16	1	0
	10月	20	1,548	77	239	288	15	1	1
	11月	20	1,556	78	256	323	17	0	0
	12月	19	1,308	69	221	277	15	0	0
	1月	19	1,311	69	225	304	17	0	0
	2月	19	1,365	72	189	317	18	0	0
	3月	21	1,607	77	231	336	17	3	0
	計	239	17,694	74	2,642	3,547	16	6	4
合 計	4372.0	279,481	64	30,244	81,154	19	519	172	792

■こども明日花プロジェクト 事業報告■

1 経過・内容

「こどもの貧困問題」の解決に向けて、平成28年5月14日発足式で活動開始を発表した「こども明日花プロジェクト」は活動3年度目を迎え、多くの支援者の皆様、ボランティアの皆様を支えていただき、内容の充実と新しい事業への挑戦、さらに同じ思いを抱く各地の実践者との交流、連携に努めながら、こどもたちに寄り添い、支える取組を進めてきました。新しいスタッフも加わり、体制も整え、山口市内の支援にとどまらず、県全体の子どもの貧困対策など、困難を抱える子どもたちへの支援活動が広がるよう、中間支援として役割を果たすべく、取組も進めました。

○プロジェクト名 「こども明日花プロジェクト」

○ビジョン

どんな環境に生まれ育っても、子どもが明日（あす）に希望を持てる社会を実現する

○ミッション

1. 子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの機会を提供する
2. 身近な大人が子どもたちを見守り、受け止める地域をつくる

○事業内容

- ・「学習支援」無料学習会（食事付き）、施設等へのボランティア派遣
- ・「生活支援」食事支援（こども食堂）、食品等の配布など
- ・「居場所づくり」課題を抱える子どもたちが安心できる居場所づくり
- ・普及啓発・人材育成、地域の包括支援の体制づくり

〔参考〕主な活動

- 30年4月24日 山口県共同募金会「赤い羽根テーマ型募金」助成交付式
5月 8日 山口南ロータリークラブ20周年記念式典（寄付金贈呈）
5月13日 広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーin 山口（山口県大200人参加）
5月29日 山口県中小企業経営者協会定期総会記念講演（松政150名）
6月18日 山口県子ども子育て応援ファンド事業助成決定通知交付式（県庁）
6月30日 野田学園中学高等学校3年生文化祭収益金寄付贈呈式
7月 7日 無料学習会 宮野・大内会場開始（計5カ所）
7月11日 県こども家庭課こども食堂食材提供協議会 出席（県庁）
7月14日～31日 周南市子どもの貧困対策担い手づくり養成研修(前期4回)
8月 8日 東京都足立区秋生部長講演「周南市職員研修会」(徳山保健センター)
8月 9日 東京都足立区秋生部長講演「山口市職員研修会」(山口市役所)
8月10日 山口市ふるさと納税クラウドファンディング認定発表会 (mirai)
9月 7日 内閣府「子供の未来応援基金」ネットワーク助成団体研修会 (大阪)
9月29日 若き担い手(ヤングワーカー)養成研修「あすはなカレッジ」開講
～1月19日(計5回)

- 10月 1日 (有)セフティワン(山口市)会社創立20周年記念寄付金贈呈
- 10月10日 曹洞宗中国管区「人権擁護担当主事研修会」(山口市 15人)
- 10月20日 沖縄・九州こども食堂研修会(熊本市)
- 10月21日 朝日新聞厚生文化事業団「朝日チェンジメーカー研修会」(熊本市)
- 10月24日～11月17日 周南市子どもの貧困対策担い手養成研修(後期4回)
- 10月28日 こども夢基金助成「角島体験交流ツアー」40名
- 10月31日 周南市職員研修会(山口県立大学社会福学部横山先生)100人
- 11月 5日 山口市こども家庭課「子どもの居場所づくり事業情報交換会」
- 11月10日 山口中央幼稚園教育講演会 講演(100名)
- 11月15日 立正佼成会山口教会「教祖様聖誕会」寄付金贈呈式(200人)
- 11月23日 ボランティア交流会(山口市商店街NAC 50人)
- 11月24日 なのはなクラブ「押し花体験」(美祢市 古屋さん)
- 11月25日 「始めよう!こども食堂・地域食堂」研修会(防長青年館 50人)
- 11月28日 山口県ボランティア交流大会「こども食堂」講演(セミナーパーク60人)
- 11月29日 周南倫理法人会モーニングセミナー(遠石会館40人)
- 11月30日 日本子ども虐待防止学会第24回学術集会おかやま大会(1,000人)
- 12月 1日 大内みんな元気食堂(第1回)120人
- 12月 1日 グリーンコープ理事長 なのはなクラブ視察(5人)
- 12月 4日 山口環境保健所 食品衛生管理研修会(なのはなハウス8人)
- 12月 9日 小郡みんな食堂(第1回)90人
- 12月19日 「赤い羽根テーマ型募金」活動団体認定式(山口県共同募金会)
- 30年1月 「赤い羽根テーマ型募金(31年度)」募集開始(～3月末)
- 1月 6日 中国四国地方子ども食堂運営者研修会(広島市 50人)
- 1月12日 大内みんな元気食堂(第2回)70人
- 1月13日 小郡みんな食堂(第2回)150人
- 1月16日 吉敷こども食堂実行委員会(地域づくり協議会他)40人
- 1月22日 内閣府「子供の未来応援基金」ネットワーク事業(3期)助成決定
- 1月28日 山口裁判所「山口家事調停委員」研修会(山口裁判所35名)
- 2月 5日 山口県央ロータリークラブ例会卓話 支援金贈呈(30人)
- 2月10日 小郡みんな食堂(第3回)137人
- 2月10日 全国こども食堂サミット2019参加(東京都 200人)
- 2月11日 全国こども食堂支援センターむすびえ「全国研修会」参加(同80人)
- 2月16日 えがお食堂よしき(第1回)227人
- 2月18～19日 あすはなカレッジ スタディツアー(滋賀県)
- 2月21～23日 子供の貧困対策センターあすのば「全国レベルアップ研修会」
- 2月24日 大内みんな元気食堂(第3回)87人
- 3月 5日 岩国市浄土真宗岩国北組人権研修会(岩国市錦パレス 50人)
- 3月 7日 県こども家庭課こども食堂食材提供協議会 出席(県庁)
- 3月14日 内閣府「子供の貧困対策マッチングフォーラムin周南市」130人
- 3月17日 阿知須住民福祉講座 (阿知須健康福祉センター)40人

3月28日 山口市こども家庭課「子どもの居場所づくり事業情報交換会」

3月31日 山口市「居場所づくり事業」30年度事業終了、実績報告提出

2 事業内容

(1) 学習支援

① 無料学習会

毎週土曜日、午前中、主にひとり親世帯や就学援助対象世帯などの中学生を対象に無料学習会（昼食付）を山口市内5カ所で実施。

会場	期間	回数	延べ 参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
白石	H30.4.7～H31.3.23	39回	198人	139人	89人	228人
平川	H30.4.7～H31.3.23	39回	371人	172人	90人	262人
小郡	H30.4.7～H31.3.23	35回	281人	136人	55人	186人
大内	H30.7.7～H31.3.23	25回	89人	71人	50人	121人
宮野	H30.7.7～H31.3.23	26回	102人	68人	60人	128人
5カ所	計	164回	1,041人	417人	344人	925人

<取組・課題・成果>

・学習会開始から3年目となり、高校受験に向けた学力向上を目的に、各会場でマネージャー（管理者）によって、学習するスタイルができており、宿題や問題集などに取り組んでいる。

・年間を通して85人が登録し、年度末時点で継続している生徒が65人（一部小学生を含む）。3年生が30人以上おり、各会場での受験対策にも対応しており、面接練習も実施。結果として、大半が公立・市立に合格した。

・会場別では、平川・小郡が15人近くいるのに対して、新設の大内・宮野は多くても5人で2～3人が多かった。2年目になると、口蔭恵で増えることもあるので期待している。白石も中学生は少なく、小学生が来ている。

・保護者アンケートによると、ボランティアの優しい指導で学習習慣が付く、と好評で、特に昼食付きはとても喜ばれている。

② 施設への派遣（児童養護施設）

入所している児童・生徒の学習補助ボランティアを派遣。

派遣先	期間	回数	学習ボランティア	備考
吉敷愛児園	H30.4～31.3	40回	55人	その他送迎ボランティア

(2) 居場所づくり事業（山口市委託事業）

主にひとり親世帯の子どもを対象とした「子どもの居場所づくりモデル事業」を受託、毎週土曜（午後3～7時半）、小中学生への学習支援と食事支援（夕食）実施。

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	H30.4.7～H31.3.31	45回	643人	168人	96人	309人

＜取組・課題・成果＞

- ・29年7月から「なのはなハウス（プロジェクト事務局）」を居場所づくりの場所として、利用しており、子どもたちは我が家のように、のびのびと畳の部屋で遊んだり、ボランティアと一緒に屋外で遊ぶなど、ゆったりと過ごしている。
- ・手作りの夕食が大きな意味を持ち、おいしい食事の提供はもちろん、家族団らんのような雰囲気を楽しみ、その中でいろいろ、家庭のことも含めて、様々な話題が出ることもあり、支援等に結び付けることができるようにしたい。
- ・対象をH30年4月から、ひとり親世帯と、特に対応が必要な家庭に限定しているが、利用者は多い。今後も、関係機関との連携により、より支援が必要な子どもたちの受け皿となることを目指していく。

（３）ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）

ひとり親世帯の保護者グループ.style（ドットスタイル）、山口県母子・父子福祉センターとの共催により、当事者同士が支援に関する情報の共有、意見交換、またリフレッシュできる内容で交流を図った。

- ① 6月17日 県立大学生徒のワークショップ（ひとり親の現状と課題）
- ② 8月26日 パソコン教室「きほんのき」vol.1 ワードの使い方
- ③ 9月9日 パソコン教室「きほんのき」vol.2 エクセルの使い方
- ④ 10月21日 参加者とフリートーク、子どもはイラスト描き方教室
- ⑤ 12月16日 爪ピカピカとフリートーク、フードバンク食品頒布
- ⑥ 2月17日 カフェ会でフリートーク

（４）情報発信

- ① フェイスブック 平成28年4月開設
- ② ホームページ 平成29年1月開設、ブログ掲載
- ③ ニュースレター（年4回）平成30年春・夏・秋、31年新年
- ④ 地域情報新聞ほっぷ 平成28年2月から、毎月1回告知記事を無料掲載
- ⑤ 平成29年度活動報告（1,000部）

（５）報道

①新聞

- 5月14日（月）山口新聞「子ども食堂の活動を広げよう 県立大でセミナー」
- 11月29日（木）宇部日報「こども食堂をまちのプラットフォームに」研修会
- 12月 3日（月）中国新聞「誰でもおいで、こども食堂始動」
- 12月 8日（土）朝日新聞「こども食堂次々 あす小郡にも」
- 1月 1日（火）山口新聞「月1回、食べに来て」子ども食堂
- 1月16日（水）宇部日報「広がるこども食堂の輪」（2月2日サンデー西京）
- 2月 7日（木）宇部日報「弁当販売のかとう寄付」
- 2月27日（水）ほうふ日報「玉ねぎ本舗 野菜100キロを寄贈」
- 3月 2日（土）サンデー西京「吉敷地域の交流深める「えがお食堂」スタート」

3月15日（金）山口新聞 子どもの貧困対策を考えるフォーラム

②テレビ

H30年12月1日 tys ニュース「大内みんな元気食堂」

31年1月12日 KRY ニュース「大内みんな元気食堂」

2月 3日 tys ニュース「大内みんな元気食堂」「えがお食堂よしき」

2月16日 YAB ニュース「えがお食堂よしき」

2月20日 山口ケーブルビジョン・まちかどNEWS「えがお食堂よしき」

3月15日 KRY「内閣府子供の貧困対策マッチングフォーラム in 周南」

（6）普及啓発

①「子どもの問題」啓発セミナー

当初は県内3か所での開催を計画していたが、後述の周南市委託「担い手づくり養成研修」に加えて、「あすはなカレッジ」「こども食堂・地域食堂プロジェクト」など新規事業に取り組んだため、今年度の開催は見合わせた。

②「子どもの貧困に取り組む仕組みづくりセミナー」（平成30年5月山口県立大学）

子ども食堂はこどもの居場所としての役割が注目され、全国的で3,000カ所を超えと言われており、さらに広げるため、全都道府県での開催が進められている「広がり、子ども食堂の輪！全国ツアー」を山口県立大学と共催で開催した。

基調講演は、社会活動家、法政大学教授 湯浅誠さん、全国トップの活動実績を持つ、NPO法人フードバンク山梨理事長 米山けい子さんをお願いしました。

午後は3つの分科会①子どもの場所づくり、②こども食堂、③フードバンクとの連携、に分かれて、事例紹介と意見交換を行いました。

湯浅さんの講演には200人の参加があり、子どもの貧困問題をわかりやすくお話しされ、大変、好評でした。米山理事長によるフードバンク活動の紹介と、分科会でのハローズ（岡山県）の取組事例をきっかけに、（株）丸久（防府市）とフードバンク山口、こども食堂との連携強化が進むなど、多くの成果があった。

（7）研修事業

周南市次世代支援課から、29年度山口県委託「地域コーディネーター」養成研修と同様に周南市で開催したいとの依頼があり、前期研修と専門研修を市内4カ所（徳山、櫛浜、福川、須々万）で開催（参加者：前期130人、後期110人）。併せて、周南市役所職員研修を2回（管理職員向け、一般職員向け）実施した。

- ① 前期研修 参加者のべ130人 ※時間は何れも13:30～16:30（3時間）徳山以外
内容：周南市実態調査結果（次世代支援課）、取組事例（県内講師）、意見交換

地区	日時	会場	講師
中央 （徳山）	7月25日 （水）18:00	徳山保健センター	山口県立大学社会福祉学部 准教授 横山順一
東部 （櫛浜）	7月28日 （土）13:30	櫛浜市民センター	やまぐち総合教育センターSSW エリアス・パー・ハイザー 岩金俊充
西部	7月14日	新南陽ふれあいセン	岩国市社協由宇支部

(福川)	(土) 13:30	ター	支部長 栗屋 浩
北部 (須々万)	7月21日 (土) 13:30	須々万市民センター 別館	ながとチャイルドサポート協議会代 表 荻 隆宣

② 後期研修 参加者のべ 130 人 ※時間は何れも 13:30～16:30 (3 時間) 徳山以外
内容：基調説明 (県外講師)、意見交換 (グループワーク)

地区	日時	会場	基調説明 講師
中央 (徳山)	10月24日 (水) 18:00	徳山保健センター	NPO 法人西淀川子どもセンター前 代表理事 西川日奈子(大阪市)
東部 (徳山)	11月27日 (土) 13:30	徳山市民センター	森の里こども食堂副代表、鹿児島県こ ども食堂・地域食堂ネットワーク代表 園田愛実(鹿児島市)
西部 (福川)	11月10日 (土) 13:30	新南陽ふれあいセン ター	さいさいこども食堂 代表 佐藤信治 (岡山市)
北部 (須々万)	11月17日 (土) 13:30	須々万市民センター 別館	小幡緑地公園遊び場の会 代表 中村真由子 (名古屋市)

③職員研修 参加者 それぞれ 80 人

対象	日時	会場	基調説明 講師
管理職	8月8日 (水) 13:30	徳山保健センター	東京都足立区役所 地域のちから推進本部長 絆づくり担当部長 秋生修一郎
一般職員	10月31日 (水) 13:30	周南市役所 多目的室	山口県立大学社会福祉学部 准教授 横山順一

(8) 人材育成

社会的課題に取り組む「若き担い手 (ヤングワーカー)」を育成するため、問題解決に必要
な専門的知識を得るとともに、明日花プロジェクトを支援している企業経営者などの講話
を聴き、自ら考え、自ら行動する人材を育成する「あすはなカレッジ」を開催し、大学生を
中心に 15 人の申込があり、参加者はのべ 60 人。企画運営は、学生ボランティアの有志に
よる学生委員会が担当した。

<講師・日程・会場> 時間は 13:00～16:30

回	開催予定日	講師①専門家、実践者	講師②：企業、NPO	会場
1	9月29日(土)13:00	県立大 横山順一先生	明日花 児玉頼幸 (県職員)	①
2	10月13日(土)13:00	とりで 金本秀韓理事長	(株)池田建設 池田直人社長	①
3	11月18日(日)13:00	SSW 岩金俊充さん	(株)TAMARU 横岡樹樹社長	②
4	12月8日(土)13:00	県立大 大石由起子先生	明日花プロボノ 井上貴之さん	②
5	1月19日(土)13:00	明日花 柿沼瑞穂さん		②

※会場 ①「山口市男女共同参画センター」、「山口県母子父子福祉センター」

(9) こども食堂・地域食堂プロジェクト

山口市のふるさと納税を活用したクラウドファンディング事業の認定を受け、①こども食
堂に係る研修会、②山口市内に新たに 3 地域で子ども食堂開設、を実施した。

①研修会「始めよう！こども食堂・地域食堂」

平成 30 年 11 月 25 日（日）13:30～16:30 パルトピアやまぐち防長青年館

講師：NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長 栗林知絵子

参加者：50 人

②こども食堂・地域食堂

① 大内みんな元気食堂（計 4 回） 大内地域交流センター 食事 11:30～13:00

② 小郡みんな食堂（計 4 回） 小郡ふれあいセンター

③ えがお食堂よしき（計 2 回） 吉敷地域交流センター

＜開催状況＞ ※参加無料、誰でも参加可能

地域	開催月日	献立	利用者数	ボランティア	合計
①大内	12 月 1 日(土)	カレーライス	120 人	15 人	135 人
	1 月 12 日(土)	カレーライス	70 人	12 人	82 人
	2 月 24 日(日)	カレーライス	87 人	10 人	97 人
	3 月 10 日(日)	カレーライス	67 人	10 人	77 人
②小郡	12 月 9 日(日)	カレーライス	90 人	15 人	105 人
	1 月 13 日(日)	雑煮、鶏唐揚げ	150 人	15 人	165 人
	2 月 10 日(日)	炊込御飯、豚汁	137 人	15 人	152 人
	3 月 10 日(日)	ハヤシライス	133 人	15 人	148 人
③吉敷	2 月 16 日(土)	カレーライス	227 人	25 人	252 人
	3 月 16 日(土)	カレーライス	275 人	28 人	303 人
合計	10 回		1,356 人	160 人	1,516 人

(10) 資金調達

①助成金等申請

- ・内閣府・福祉医療機構「子供の未来応援基金」第 3 期ネットワーク事業＜採択＞
- ・日本財団（平成 30 年度通常募集：SSW活用学校ごはん配布事業＜不採択＞）
- ・国立青少年教育振興機構（子どもゆめ基金）＜採択＞
- ・やまぐち子ども・子育て応援ファンド助成事業＜採択＞
- ・山口県共同募金会（赤い羽根テーマ型募金：3 期）＜採択＞
- ・大和証券福祉財団（ボランティア活動支援：プロジェクター、パソコン）＜採択＞
- ・麒麟福祉財団（「宮野トワイライト」事業）＜採択＞

②子どもの貧困対策宣言企業（3 社）

H28（株）池田建設、サン・ロード（株）

H29（株）TAMARU

③ 募金箱（50 ヶ所）

④ 寄附付自動販売機（4 台） ※協力：日本コカコーラ・ウエスト（株）

H28 サン・ロード（株）、防長苑

H29 マツダ防府工場、山口ザビエル記念聖堂

(11) その他

①講演等・説明 24回 2,123人

時期	対象・名称	場所	人数
H30.5.21	常妙寺（日蓮宗）役員会	山口市（常妙寺）	10人
5.29	（一社）山口県中小企業経営者協会総会記念講演	山口市（松政）	120人
6.12	本願寺山口別院「山口教区少年連盟指導者研修会」	山口市（本願寺山口別院）	50人
6.16	美祢市立美東中学校人権教育研修	美祢市（美東中学校）	100人
6.30	周南市社会福祉協議会職員なのはな視察	山口市（なのはなハウス）	20人
7.10	山口市クラウドファンディング審査会	山口市（山口市役所）	15人
8.1	山口中央倫理法人会「モーニングセミナー」	山口市（西の雅 常盤）	40人
10.10	曹洞宗中国管区人権擁護推進主事自主研修会	山口市（ホテルニュータナカ）	15人
10.20	九州沖縄こども食堂がつながる研修会	熊本県熊本市	50人
11.10	山口中央幼稚園 教育講演会	山口市（山口中央幼稚園）	100人
11.15	立正佼成会「開祖さま生誕会」一食を捧げる運動寄付金贈呈式	山口市（立正佼成会山口教会）	100人
11.23	こども明日花ボランティア大交流会	山口市（NAC中市）	50人
11.28	山口県ボランティア連絡協議会交流大会	山口市（セミナーパーク）	60人
11.29	周南倫理法人会「モーニングセミナー」	周南市（遠石会館）	40人
11.30	日本子ども虐待防止学会第24回学術集会 おかやま大会子どもの貧困シンポジウム	岡山県倉敷市（倉敷市民会館）	1,000人
12.1	グリーンコープ理事長なのはなクラブ視察、説明	山口市（なのはなハウス）	5人
H31.1.23	山口裁判所調停委員研修会	山口市（山口裁判所）	30人
2.5	大和証券福祉財団助成金贈呈式	周南市（大和証券徳山支援）	5人
2.5	山口県央ロータリークラブ例会（卓話）	山口市（山口グランドホテル）	40人
2.14	山口県遊技業協同組合 事業説明（寄付）	山口市（山口県遊技業会館）	3人
3.5	岩国北組「御同胞の社会をめざす運動」（実践運動）推進協議会	岩国市（錦パレス）	70人
3.14	内閣府「子供の貧困対策マッチング・フォーラム in 周南」	周南市（周南総合庁舎）	130人
3.17	阿知須地区社協主催阿知須住民福祉講座	山口市阿知須健康福祉センター	40人
3.27	常福寺 春季婦人会法要 研修会	美祢市（常福寺）	30人

②会議等（県こども家庭課、山口市こども家庭課）

時期	対象・名称	場所	人数
H30.7.11、H31.3.7	県「フードバンクとこども食堂連携事業」	山口県庁	30人
H30.11.20、H31.3.19	山口市 居場所づくり意見交換会	山口市役所	10人